

健康社会医学

1 構 成 員

	平成 22 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
准教授	1 人
講師（うち病院籍）	0 人 （ 0 人）
助教（うち病院籍）	2 人 （ 0 人）
助手（うち病院籍）	0 人 （ 0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	8 人 （ 0 人）
研究生	1 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	2 人
合計	16 人

2 教員の異動状況

尾島 俊之（教授）	（H18. 4. 1～現職）
早坂 信哉（准教授）	（H19. 4. 1～H21. 10. 31 講師；21. 11. 1～現職）
村田千代栄（助教）	（H17. 4. 1～19. 3. 31 助手；19. 4. 1～現職）
野田 龍也（助教）	（H19. 4. 1～現職）
菊池 寛利（特任助教）	（H21. 9. 1～H21. 10. 31 第 2 外科医員；H21. 11. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 21 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	17 編 （ 9 編）
そのインパクトファクターの合計	10. 46
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編 （ 3 編）
そのインパクトファクターの合計	0. 0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	13 編 （ 13 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編 （ 0 編）
そのインパクトファクターの合計	0. 0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kondo I, Funahashi K, Nakamura M, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y: Association between Food Group Intake and Serum Total Cholesterol in the Japanese Population: NIPPON DATA 80/90, J Epidemiol, 20(Suppl 3): 576-581, 2010. [1.64]
2. Hayasaka S, Tsutsumi A, Noda T, Murata C, Ojima T: Effects of Stone Spa (Ganban-yoku) on Psychological States, Complement Ther Clin Pract, 15: 129-32, 2009. [0.0]
3. Murata C, Yamada T, Chen C-C, Ojima T, Hirai H, Kondo K: Barriers to Health Care among the Elderly in Japan, International Journal of Environmental Research and Public Health, 7: 1330-1341, 2010. [0.0]
4. Noda T, Ojima T, Hayasaka S, Hagihara A, Takayanagi R, Nobutomo K: The health impact of remarriage behavior on chronic obstructive pulmonary disease: findings from the US longitudinal survey, BMC Public Health, 9: 412, 2009. [2.03]
5. 原岡智子, 仲井宏充, 尾島俊之, 野田龍也, 村田千代栄, 早坂信哉: 平常時における防災への知識・意識・行動の関連, 保健医療科学, 58(3): 277-282, 2009.
6. 柴田陽介, 村田千代栄, 野田龍也, 早坂信哉, 尾島俊之: スポーツと死因別死亡の地域相関研究. 運動疫学研究; 11: 8-16, 2009.
7. 村田千代栄: 医療不安と社会経済的地位の関連 —JGSS-2008に基づく分析—, 『日本版 General Social Surveys 研究論文集』, 10: 111-122, 2010.

インパクトファクターの小計 [3.67]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ohta M, Kawabata T, Yamamoto M, Tanaka T, Kikuchi H, Hiramatsu Y, Kamiya K, Baba M, Konno H. TSU68, an antiangiogenic receptor tyrosine kinase inhibitor, induces tumor vascular normalization in a human cancer xenograft nude mouse model. Surg Today. 39(12):1046-53, 2009. [0.80]
2. 長山有香理, 桑原徹人, 木下幸子, 早坂信哉, 村田千代栄, 野田龍也, 尾島俊之: 飲食店の分煙状況および関連要因に関する研究. 厚生指標, 57(3): 31-36, 2010.

インパクトファクターの小計 [0.80]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Saito T, Nitta H, Kubo O, Yamamoto S, Yamaguchi N, Akiba S, Honda Y, Hagihara J, Isaka K, Ojima T, Nakamura Y, Mizoue T, Ito S, Eboshida A, Yamazaki S, Sokejima S, Kurokawa Y, Kabuto M: Power-frequency magnetic fields and childhood brain tumors: a case-control study in Japan, J Epidemiol, 20(1): 54-61, 2010. [1.64]
2. Okuda N, Miura K, Yoshita K, Matsumura Y, Okayama A, Nakamura Y, Okamura T, Saitoh S, Sakata K, Ojima T, Turin T C, Ueshima H: Integration of Data from NIPPON DATA80/90 and National

Nutrition Survey in Japan: For Cohort Studies of Representative Japanese on Nutrition, J Epidemiol, 20(Suppl 3) : 506-514, 2010. [1.64]

3. Ichida Y, Kondo K, Hirai H, Yoshikawa G, Hanibuchi T, Murata C: Income inequality, social capital, and self-rated health in Chita peninsula, Japan: a multilevel analysis of 25 Japanese communities, Social Science & Medicine, 69(4): 489-99, 2009. [2.71]
4. 平井寛, 近藤克則, 尾島俊之, 村田千代栄: 地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討～AGESプロジェクト3年間の追跡研究, 日本公衆衛生雑誌; 56(8): 501-12, 2009.
5. 若林チヒロ, 新村洋未, 加藤朋子, 川島美智子, 尾島俊之, 柳川洋: 二次医療圏別平均寿命による健康指標の開発, 厚生指標, 56(11): 26-32, 2009.
6. 世古留美, 川戸美由紀, 橋本修二, 林正幸, 加藤昌弘, 渡辺晃紀, 野田龍也, 尾島俊之, 辻一郎: 介護保険に基づく平均自立期間の算定方法の適切性に関する調査, 厚生指標, 57(2): 31-34, 2010.
7. 加藤昌弘, 世古留美, 川戸美由紀, 橋本修二, 林正幸, 渡辺晃紀, 野田龍也, 尾島俊之, 辻一郎: 要介護認定者数に基づく平均自立期間の小地域への適用, 厚生指標, 57(4): 14-19, 2010.
8. 高田薫子, 白井敏弘, 山田友世, 他: 成人に発症した infectious bronchiolitis の2例, 静岡県立総合病院医学雑誌, 22(1): 25-30, 2010

インパクトファクターの小計 [5.99]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hayasaka S, Shibata Y, Sugimura I, Goto Y, Hasegawa T, Yasuda T, Ohta K, Mito H, Noda T, Murata C, Ojima T: Effects of underwater exercise on quality of life and psychological states in Kawane Spa: a randomized controlled trial (Kawane Spa Study). The 62nd General Assembly and International Thermalism/Scientific Congress of the World Federation of Hydrotherapy and Climatotherapy (FEMTEC), Yokohama, November 8-12, 2009.
2. Murata C: "Factors Associated with Concern about Health Care in Japan," Proceedings of The 14th TSCS Conference and 2009 EASS Symposium, November 18, 2009, Institute of Sociology, Academia Sinica, Taipei.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之: 保健活動における評価の現状と課題, 保健医療科学, 58(4): 330-7, 2009.
2. 尾島俊之: 高齢者のための地域の保健医療福祉サービス, 作業療法ジャーナル, 43(13): 1366-1370, 2009.
3. 村田千代栄, 近藤克則: うつと社会経済的地位, 公衆衛生, 74(3): 254-257, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之、研究における論理的配慮／因子分析. in 中村好一編：医療系のためのやさしい統計学入門. 診断と治療社, 2009.
2. 早坂信哉、尾島俊之、割合の差（推定と検定）. in 中村好一編：医療系のためのやさしい統計学入門. 診断と治療社, 2009.
3. 尾島俊之著：老人・成人の健康管理／母子の健康管理. in 柳川洋編、柳川洋、永井正規、小田清一、鏡森定信、萱場一則、坂田清美：基礎から学ぶ健康管理概論 増補. 南江堂、東京, 2009.
4. 尾島俊之、保健医療制度と医療資源. in 柳川洋、中村好一編：公衆衛生マニュアル2010, 南山堂、東京, 2010.
5. 早坂信哉、糸数公、岩室伸也、上田真二、岡野谷純、木村博一、中川和之、洙田靖夫、鳩野洋子、福永一郎、堀口逸子、三輪眞智子：新型インフルエンザ対策におけるボランティアの役割の検討. in 尾島俊之（研究代表者）：厚生労働科学研究費補助金地域健康危機管理研究事業. 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究. 平成21年度総括研究報告書. p.50-56, 2010.
6. 早坂信哉、毛利好孝、足立ちあき、松下清美、野田哲朗、宮園将哉、佐藤良江、河上靖登、田中由紀子、伊地智昭浩、柳尚夫、一居誠、高野正子、永井仁美、今岡利香：感染拡大地域の行政対応. in 尾島俊之（研究代表者）：平成21年度厚生労働科学研究（特別研究事業） 新型インフルエンザA（H1N1）への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究. 平成21年度総括研究報告書. p.75-138, 2010.
7. 早坂信哉：新型インフルエンザ発生の経験から学んだ健康危機への提言. in 平成21年度広域的健康危機管理対応体制整備事業. 新型インフルエンザ対応の実際とその対策における広域連携のあり方に係る検討報告書～地方衛生研究所を中心として～. p.109-111, 2010.
8. 早坂信哉：地域ブロック広域連携検討会. in 平成21年度広域的健康危機管理対応体制整備事業. 新型インフルエンザ対応の実際とその対策における広域連携のあり方に係る検討報告書～地方衛生研究所を中心として～. p.115-138, 2010.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 大井田隆、兼板佳孝、横山徹爾、曾根智史、山縣然太郎、水嶋春朔、尾島俊之、青山旬、谷原真一、中山健夫、吉池信男、小橋元、青木良太、藤田利明、杉山龍司：図説 国民衛生の動向 2009. (財) 厚生統計協会、東京, 2009.
2. 岡本悦司、兼板佳孝、小橋元、坂田清美、佐藤敏彦、吉池信男、岡田充史、尾島俊之、嘉納明子、亀崎豊実、高橋美保子、西浦博、森下幸治、山田宣夫、山本秀樹、渡邊亮一：サブノート第33版 保健医療論・公衆衛生学（2010年版）, メディックメディア、東京, 2009.
3. 柳川洋、尾島俊之、北村邦夫、中村好一、菊地慶子、倉田貞美、近藤今子、柴田陽介、巽あさみ、千原泉、西山慶子、長谷川拓也、原岡智子、船橋香緒里、安田孝子、渡辺晃紀：保健指導ノート2010 公衆衛生の現状. 日本家族計画協会、東京, 2009.
4. 緒方剛、遠藤幸夫、吉田道彦、佐々木隆一郎、岸本益実、竹之内直人、加藤千鈴、押谷仁、森澤雄司、早坂信哉：新型インフルエンザ対策情報発信共有事業研究報告書. in 北川定謙（研究代

表者)：厚生労働科学研究費補助金地域健康総合推進事業。平成 21 年度地域健康総合推進事業発表会抄録集。p. 66-69, 2010.

5. 厚生労働科学研究班（研究代表者 尾島俊之）、ボランティアの安全衛生研究会、NPO 法人日本ファーストエイドソサエティ。クロスロード災害ボランティア編。京都大学生協ブックセンター，2009.

4 特許等の出願状況

	平成 21 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 21 年度
(1) 文部科学省科学研究費	5 件 (301 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	6 件 (1878.7 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	1 件 (120 万円)
(5) 受託研究または共同研究	2 件 (530 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	1 件 (10 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

尾島俊之（代表者）基盤研究（C）「生活習慣病等へのポピュレーション・アプローチの具体的方法とその効果に関する研究」平成19～21年度、104万円（継続）

村田千代栄（代表者）基盤研究（C）「一般高齢者における受療抑制とその予後に関する追跡研究」平成21～23年度、156万円（新規）

尾島俊之（分担者）基盤研究（B）「介護予防にむけた社会疫学研究－健康寿命をエンドポイントとする大規模コホート研究」平成18～21年度、10万円（継続）代表者 日本福祉大学社会福祉学部 近藤克則

尾島俊之（分担者）基盤研究（C）「二次医療圏単位の平均余命の基礎的特性及び保健医療状況等との関連に関する疫学的研究」平成21～23年度、26万円（新規）代表者 埼玉県立大学保健医療福祉学部 新村洋未

村田千代栄（分担者）基盤研究（B）「介護予防にむけた社会疫学研究－健康寿命をエンドポイントとする大規模コホート研究」平成18～21年度、5万円（継続）代表者 日本福祉大学社会福祉学部 近藤克則

(2) 厚生科学研究費

尾島俊之（代表者）特別研究事業「新型インフルエンザ A（H1N1）への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究」1,170 万円（新規）

尾島俊之（代表者）健康安全・危機管理対策総合研究事業「地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究」平成 19～21 年度 343 万 7

千円（継続）

尾島俊之（分担者）循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「健康寿命の年次推移、地域分布と関連要因の評価に関する研究」平成 21～22 年度、190 万円（新規）代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二

尾島俊之（分担者）長寿科学総合研究事業「食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究：NIPPON DATA 80・90 の追跡調査」平成 21 年度、25 万円（新規）代表者 滋賀医科大学 上島弘嗣

尾島俊之（分担者）成育疾患克服等次世代育成基盤研究「健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究」平成 21～23 年度、50 万円（新規）代表者 山梨大学 山縣然太郎

早坂信哉（分担者）感染拡大地域の行政対応、100 万円（新規）（特別研究事業）「新型インフルエンザ A（H1N1）への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究」代表者 浜松医科大学 尾島俊之

(4) 財団助成金

早坂信哉（代表者）日本健康開発財団「温泉の利用と健康状況の関連に関する生態学的及び縦断的研究」平成 21～22 年度、120 万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

尾島俊之（代表者）浜松市「浜松市の女性の健康支援対策事業のための基礎調査」平成 21 年度 500 万円（新規）

野田龍也（代表者）株式会社ファイン「陶板浴の身体・心理面への影響についての研究」平成 21～23 年度 30 万（新規）

(6) 奨学寄付金

尾島俊之（株）ツムラ 健康社会医学研究助成、平成 21 年度、10 万円（新規）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	2 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	1 件	14 件
(6) 一般演題発表数	20 件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
招待講演

Murata C : “Factors Associated with Concern about Health Care in Japan” The 14th TSCS Conference and 2009 EASS Symposium, 2009, 11, 18, Taipei, Taiwan.

4) 国際学会・会議等での座長

1. Ojima T, The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education (APHPE), Chiba, July 18-20 2009.
2. Ojima T, The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Saitama, Jan 9-10 2010

5) 一般発表

口頭発表

Shibata Y, Hayasaka S, Ojima T, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nakamura Y, The Jichi Medical School Cohort Study Group. Physical Activity and Stroke Risk in Japanese Population: The Jichi Medical School Cohort Study. The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education (APHPE). July 18-20 2009, Chiba (Japan)

Ojima T, Fukunaga I, Iwamuro S, Noda T, Murata C, Hayasaka S, Ueda M, Kondo I, Haraoka T, Kikuchi K, Hasegawa T, Funahashi K, Yasuda T, Yamada T, Shibata Y, Nishiyama K, Nakamura M. What is the effective population approach for cancer screening program. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

ポスター発表

Ojima T, Shibata Y, Noda T, Murata C, Hayasaka S, Haraoka T, Funahashi K, Kikuchi K, Hasegawa T, Yasuda T, Yamada T, Nishiyama K, Nakamura M, Kondo I, Ueda M, Wakabayashi C, Shinmura H, Yanagawa H. Social Capital and Mortality among Municipalities in Japan. The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education (APHPE). July 18-20 2009, Chiba (Japan)

Noda T. Gargling Education: Preventive Effect for Febrile Diseases in Childhood. The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education (APHPE). July 18-20 2009, Chiba (Japan)

Nakade M, Murata C, Hirai H, Kondo K, Tsutsui H, Tsuboi H, Ojima T: Sleep in non-institutionalized elderly in Japan: The Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES), The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, The 34th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research and The 16th Annual Meeting of Japanese Society for Chronobiology Joint Congress 24-28, Oct 24-28 2009, Osaka (Japan)

Hayasaka S, Shibata Y, Sugimura I, Goto Y, Hasegawa T, Yasuda T, Ohta K, Mito H, Noda T, Murata C, Ojima T. Effects of underwater exercise on quality of life and psychological states in Kawane Spa: a randomized controlled trial (Kawane Spa Study). The 62nd General

Assembly and International Thermalism/Scientific Congress of the World Federation of Hydrotherapy and Climatotherapy (FEMTEC), Nov 8-12 2009, Yokohama (Japan)

Hayasaka S, Shibata Y, Goto Y, Noda T, Murata C, Ojima T. Bathing in a bathtub and health conditions: a cross-sectional study. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Murata C. Concern about Health Care and Socio-economic Status. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Noda T, Kikuchi K, Murata C, Hayasaka S, Ojima T. Relationship between skipping breakfast and study time among students in Japan. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Shibata Y, Hayasaka S, Ojima T, Yamada T, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nakamura Y, JMS Cohort Study Group. Physical Activity and Risk of Cardiovascular Disease (CVD) Death in Japanese with a History of CVD. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Kikuchi K, Murata C, Kondo I, Shibata Y, Funahashi K, Yasuda T, Haraoka T, Ueda M, Nakamura M, Hayasaka S, Noda T, Tatsumi A, Suzuki M, Otsuka T, Mizuta A, Ojima T. Relationship between Skipping Breakfast and Cellular Phone Use among Teenagers. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Hasegawa T, Noda T, Takabayashi T, Ninomiya T, Haraoka T, Ueda S, Kondo I, Kikuchi K, Funahashi K, Ueda M, Yamada T, Shibata Y, Nishiyama K, Nakamura M, Murata C, Hayasaka S, Ojima T. Risk Factors for Lifetime Suicidal Ideation in a Local Population. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Funahashi K, Kondo I, Nakamura M, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H, for the NIPPON DATA 80,90 Research Group. Intake of Food Groups in Japan: NIPPON DATA 80,90. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Yasuda T, Murata C, Ojima T, Tounai S, Yamagata Z. Maternal Smoking and Drinking during Pregnancy. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Yamada T, Hayasaka S, Shibata Y, Ojima T, Gotoh T, Ishikawa S, Nakamura Y, Kayaba K, JMS Cohort Study Group. Citrus Fruit Intake may Reduce Incidence of Cardiovascular Disease: Jichi Medical School Cohort Study. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Haraoka T, Ojima T, Noda T, Murata C, Hayasaka S, Yamaoka T. Factors Affecting Cooperation with Community Associations and Non-Professional Disaster Volunteers in the Niigataken

Chuetsu-Oki Earthquake Disaster. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Kondo I, Funahashi K, Nakamura M, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H, for the NIPPON DATA 80, 90 Research Group. Association between Food Grope Intake and Serum Total Cholesterol Level in the Japanese Population: NIPPON DATA 80, 90. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Nakamura M, Kondo I, Funahashi K, Ojima T, Yoshita K, Nakamura Y, Okuda N, Miura K, Ueshima H, For the NIPPON DATA 80, 90 Research Group. Food Grope Intake by Birth Cohort in the Japanese Population. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Nishiyama K, Ojima T, Hasegawa T, Hayasaka S, Murata C, Noda T, Shibata Y, Haraoka T, Kikuchi K, Nakamura M. The Factors in Lifestyle which Influence the Subjective Health. The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

Kondo K, Hirai H, Nishi A, Ojima T. Survival Impacts of Socioeconomic Status and Negative Life Events: A Prospective Cohort Study in Japan (AGES Project). The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association. Jan 9-10 2010, Saitama (Japan)

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

早坂信哉：温泉医学への疫学的アプローチ．日本温泉気候物理医学会東海上甲信越地区温泉療法医研修会． 2009 年 11 月、岐阜

3) シンポジウム発表

尾島俊之：健康日本 2 1 地方計画の課題と今後．第 68 回日本公衆衛生学会総会． 2009 年 10 月、奈良

4) 座長をした学会名

尾島俊之：第 55 回東海公衆衛生学会学術大会 座長

尾島俊之：国際疫学会西太平洋地域学術会議兼第 20 回日本疫学会学術総会 座長

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之 日本公衆衛生学会 評議員

尾島俊之 日本公衆衛生学会 査読委員

尾島俊之 日本疫学会 評議員

尾島俊之 日本疫学会 ニュースレター編集委員長

尾島俊之 日本疫学会 広報委員会委員
 尾島俊之 日本疫学会 将来構想検討委員会委員
 尾島俊之 日本循環器管理研究協議会（日本循環器病予防学会） 理事
 尾島俊之 東海公衆衛生学会 理事
 尾島俊之 日本産業衛生学会東海地方会 理事
 尾島俊之 日本多施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員(日本疫学会からの推薦)
 早坂信哉 日本プライマリケア学会 評議員
 早坂信哉 日本公衆衛生学会 評議員
 早坂信哉 日本温泉気候物理医学会 広報・情報委員会副委員長
 早坂信哉 日本温泉気候物理医学会 評議員
 村田千代栄 アメリカ公衆衛生学会 査読委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

尾島 俊之 3回 Journal of Epidemiology (Japan)
 早坂 信哉 1回 Preventive Medicine (USA)
 村田千代栄 2回 Public Health Nursing (USA)

9 共同研究の実施状況

	平成 21 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	12 件
(3) 学内共同研究	2 件

(1) 国際共同研究

1. EASS2010 (Eastern Asian Social Survey 2010) : Hong Kong University of Science and Technology, Renmin University : China, Sungkyunkwan University, Yonsei University : Korea, Institute of Sociology, Academia Sinica, National ChengChi University : Taiwan, H20-22, 調査票設計・資料交換、(文部科学省など)

(2) 国内共同研究

1. 地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究、AGES (愛知老年学的評価研究)、近藤克則 (日本福祉大学社会福祉学部)
2. JMS コホート研究、石川鎮清 (自治医科大学地域医療学センター)
3. 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究、山縣 然太郎 (山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座)
4. 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究、橋本修二 (藤田保健衛生大学医学部衛生学講

座)

5. 聴覚器戦略研究 聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、福島邦博(岡山大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
6. NIPPON DATA 研究、上島弘嗣(滋賀医科大学社会医学講座)
7. 新型インフルエンザ A(H1N1) への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究、小林光樹(東北大学大学院医学系研究科)、西山利正(関西医科大学公衆衛生学)、緒方剛(茨城県筑西保健所)
8. 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究、三輪真知子(静岡県立大学)、鳩野洋子(九州大学大学院)、堀口逸子(順天堂大学公衆衛生学)、岡野谷純(日本ファーストエイドソサエティ) 他
9. 医療観察法導入後における触法精神障害者への対応に関する研究、吉住昭(国立病院機構 花巻病院)
10. 低出生体重児出生関連要因分析に関する基礎的検討、佐々木隆一郎(長野県飯田保健所)
11. JGSS2010(Japanese General Social Survey), EASS2010(Eastern Asian Social Survey 2010)、岩井紀子(大阪商業大学 JGSS 研究センター)
12. JALS study (Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study)、豊嶋英明(JA 愛知厚生連 安城更生病院)

(3) 学内共同研究

1. 減塩及び慢性腎臓病(CKD)に関する研究、菱田明、藤垣嘉秀、坂尾幸俊(内科学第一)
2. 糞便中の mRNA 発現を指標にした大腸癌診断法に関する研究、金岡繁(分子診断学)

10 産学共同研究

	平成 21 年度
産学共同研究	2 件

1. 早坂信哉 有限会社不二熱設備、岩盤浴の身体・心理面への影響についての研究
2. 野田龍也 株式会社ファイン、陶板浴の身体・心理面への影響についての研究

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 新型インフルエンザその他健康危機管理に関する研究

厚生労働科学研究(特別研究事業)「新型インフルエンザ A(H1N1) への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究」を実施した。この研究は、平成 21 年に発生した新型インフルエンザ A(H1N1) の経験を生かすことにより、将来に再度、別の新型インフルエンザの流行に見舞われた場合に、より適切に対応できることに資することを目的とした研究である。調査や検討の結果、今後の新型インフルエンザ対策として、状況に応じて柔軟な運用が行いやすい行動計画策定等の備え、種々の関係者間及び国民とのコミュニケーションの強化、感染症対応に関する人材力の強化などが重要であるとの成果をまとめた。この研究成果は、その後、厚生労働省新型インフルエンザ対

策本部による、新型インフルエンザ (A/H1N1) 対策総括会議において報告し、国としての今後の対策のあり方の検討に活用されている。(尾島俊之、早坂信哉、東北大学大学院医学系研究科、関西医科大学公衆衛生学、茨城県筑西保健所)

厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究」として、行政・関係機関・住民等がより確実かつ安全に健康危機に対応できることに資するべく研究を行った。具体的には、平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨(山口県防府市)、平成 21 年台風第 9 号災害(兵庫県佐用町)の被災地等の現地調査、A 市 A 地区の高齢者、全国の災害廃棄物処理計画を策定した市区町村等への郵送調査を行った。また、クロスロード災害ボランティア編を出版により公表し、地区組織の健康危機対応支援ツール、安全衛生に関する研修モジュールの開発等を行った。(尾島俊之、早坂信哉、村田千代栄、野田龍也、九州大学大学院、順天堂大学、静岡県立大学、大阪大学大学院、日本ファーストエイドソサエティ、地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター、内閣府防災ボランティア活動研究会安全衛生部会)

さらに、日本公衆衛生協会による平成 21 年度厚生労働省広域的健康危機管理対応体制整備事業健康危機管理広域連携会議に参画し、新型インフルエンザ対策における地方衛生研究所の役割に関する検討を行った。(早坂信哉、尾島俊之、日本公衆衛生協会等)

2. AGES(愛知老年学的評価研究)プロジェクト

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めている AGES(Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究)プロジェクトに、当教室も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2003 年には、3 県 15 自治体における一般高齢者 3 万人の大規模コホートとなった。H19 年度より科学研究費を得て、高齢者の受療行動(健診受診など)についての日米比較研究に着手した。健康の格差についての論文は「公衆衛生」誌に投稿、受理された。高齢者の受療行動については、スイスの公衆衛生関連の英文誌に投稿、掲載された。現在は、高齢者の受療抑制の予後(要介護状態、認知症・うつ発症など)についても解析を行っている(村田千代栄、尾島俊之、AGES プロジェクト、日本福祉大学 COE 推進室)

3. JMS コホート研究

自治医科大学地域医療学センターが中心になって、全国 12 地区の合計 1 万人の地域住民を 10 年間以上追跡して実施している大規模コホート研究に参画している。余暇、仕事、それらの合計の身体活動度(Physical Activity Index)と、総死亡、循環器疾患の死亡及び発症、その他の健康に関するアウトカムに関する分析を進めた。(早坂信哉、柴田陽介、尾島俊之、自治医科大学地域医療学センター、JMS コホート研究グループ)

4. 温泉等の効果に関する研究

静岡県島田市の川根温泉において水中運動を中心とした介入研究を行いメタボリックシンドローム改善等に関する効果を検討した。(早坂信哉、柴田陽介、尾島俊之、日本健康開発財団)

また、最近施設が増加している岩盤浴、また陶板浴の身体・精神面への効果及び影響に関する調

査を行った。(早坂信哉、野田龍也、(株)不二熱設備、(株)ファイン)

さらに、静岡県島田市において特定健診受診者のデータを解析して、入浴習慣や温泉利用と健康状態の関連の検討を行った。(早坂信哉、柴田陽介、尾島俊之、日本健康開発財団)

5. 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究

厚生労働科学研究(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)「健康寿命の年次推移、地域分布と関連要因の評価に関する研究」(研究代表者 藤田保健衛生大学医学部衛生学講座 橋本修二教授)の分担研究として実施した。当講座では、健康寿命の関連要因のマクロ面からの評価を検討した。(尾島俊之、野田龍也、藤田保健衛生大学、東北大学大学院)

6. NIPPON DATA 研究

厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)「食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究：NIPPON DATA80・90の追跡調査」(National Integrated Project for Prospective Observation of Non-communicable Disease And its Trends in the Aged)(研究代表者 滋賀医科大学生活習慣病予防センター 上島弘嗣特任教授)の分担研究として実施した。当講座では、食品群摂取量と血清総コレステロールとの関連、牛乳・乳製品摂取量と死亡リスク・健康寿命・ADLとの関連について検討した。(尾島俊之、早坂信哉、近藤今子、船橋香織里、中村美詠子、滋賀医科大学)

7. JGSS、EASS 研究

JGSS (Japanese General Social Surveys、日本版総合的社会調査)研究センターは、文部科学省より共同研究拠点として認定され、EASS (East Asian Social Survey) 2010 では、「東アジアの健康と社会」(仮)をテーマとして、肉体的・精神的・社会的健康に関する調査項目を日本・韓国・中国・台湾で共通に設け、2010年の実施を目指している。本調査には医療アクセスや医療に関する不安についての質問項目をいれる予定である。現在は調査票設計を進めると共に、総括班が整備した既存データの分析を、国内データ、国際比較データについて順次進めている。(村田千代栄、EASSプロジェクト、JGSSプロジェクト)

8. JALS (Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study)

JALS は、公益信託・日本動脈硬化予防研究基金の助成の下、全国各地で行われている循環器コホート研究の個人データを統計的に統合し、日本人の循環器疾患発症リスクとリスク因子の影響を評価するために開始された研究である。JALS は、(1)標準化を達成し前向きにデータを統合する研究(統合研究)、(2)先行するコホート研究における個人単位の成績を緩やかな標準化によって統合する研究(0次統合研究)の二つの研究からなっている。JALS には、豊嶋英明名古屋大学名誉教授による愛知県職域コホートとしてデータの提供を行っている。本研究には共同研究者として参加し、心理社会要因と循環器疾患発症リスクの関連についてデータの解析などを行っている(村田千代栄)。

9. その他の研究

幼児に対するうがいや手洗いの普及と感染症発生の関係について研究、ポピュレーション・アプローチに関する研究、健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、医療観察法導入後における触法精神障害者への対応に関する研究、低出生体重児出生関連要因分析に関する基礎的検討等を行った。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 新型インフルエンザに関する研究として、平成21年の流行における公衆衛生対応についての評価及び提言を行い、その後、厚生労働省新型インフルエンザ対策本部による、新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議においても活用されるという成果を上げた。
2. AGES プロジェクト、JMS コホート研究、NIPPON DATA 研究では、大規模コホート研究によって、今後の保健医療福祉施策に有用な知見を得た。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 新型インフルエンザに関する研究は、社会的に大きな問題となった課題に対してタイムリーに取り組み、今後の対応に資する成果をまとめた点が独創性、応用性の高い研究となっている。また、地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究は、公衆衛生学の視点から一般ボランティアについて系統的に扱った初めての研究である点が独創的である。
2. AGES プロジェクトは、公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また、所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者3万人を対象にした社会疫学に関するコホート研究は、国内外でも貴重であり、文部科学省研究費を得て、日米の高齢者の受療行動について、アメリカの大学との比較共同研究に着手した経緯がある。この研究は、根拠に基づく保健医療政策立案に向け、基礎的データの提示を目標としているが、政策に直結するこのような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ、研究の継続性、政策への応用性が見込まれる。
3. JGSS プロジェクトは、1999年から蓄積されてきた総合的社会調査に基づく共同研究であり、大阪商業大学、東京大学、早稲田大学などが参加している。「大阪商業大学 JGSS 研究センター」は学術フロンティア推進拠点として文部科学省の助成をうけながら、2000年調査からこれまで6回の全国調査を実施してきた。さらに、2003年に台湾、韓国、中国の研究機関と共同で、East Asian Social Surveys (EASS) プロジェクトを立ち上げ、国際比較研究を行ってきた。本プロジェクトには、調査設計の初期段階、データ収集後の分析段階から柔軟に共同研究に参加できる体制があり、社会調査データに基づく日本社会の現状と変容についての共同研究、および東アジア諸地域との比較分析を行う共同研究が可能であり学術的意義は大きい。
4. JALS は、上島弘嗣特任教授（滋賀医科大学生活習慣病予防センター）を委員長、大橋靖雄教授（東京大学大学院医学系研究科生物統計学）を事務局長とする、33コホート（約70市町村、9つの職域）、約12万人からなる全国規模の統合コホート研究であり、2002年から2004年12月までにベースライン調査が行われ（一部コホートは2005年3月末）た。全国規模のデータを用いて、循環器系疾患発症の関連要因について、多面的に検討する本研究は、今後の循環器疫学研究にとっても有用である。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 尾島俊之：医療ルネサンス 健康診断 基準値にとらわれない 読売新聞 2009. 4. 22
2. 尾島俊之：メタボ基準 異論百出、読売新聞 2009. 6. 3
3. 柴田陽介：スポーツ効果長続き 医療ネット 21 神奈川新聞 (2009. 11. 16)、新潟新聞 (2009. 11. 16) 沖縄タイムス (2009. 11. 18)、神戸新聞 (2009. 11. 23)、福島民友 (2009. 11. 27)、山陰新聞 (2009. 11. 30)、佐賀新聞 (2009. 12. 15)、岐阜新聞 (2009. 12. 21)、静岡新聞 (2009. 12. 21)
4. 野田龍也：食物アレルギー研究会「保育園における食物アレルギー対応」研究結果 モーニングシンポジウム〈予告抄録〉教育医事新聞 2010. 1. 25
5. 野田龍也：食物アレルギー研究会「保育園における食物アレルギー対応」研究結果 アレルギー対策を考える NHK ニュース 2010. 2. 13
6. 尾島俊之：的確なポピュレーション・アプローチが重要、メディカルトリビューン、2010. 2
7. 尾島俊之：保健所 66%「人不足」新型インフル初期対応 朝日新聞 2010. 2. 27
8. 尾島俊之：新型インフル、柔軟な対応を厚労省研究班が提言 47NEWS 共同ニュース（共同通信社） 2010. 2. 26